

## 「ラベルで分かる」ジャバラグリース

1. お酒のビンから、ラベルをはずしたら???
2. 箱から出したら、何のグリースかまったく分からない???
3. 間違ったグリースをさしたら、機械がトラブルを起こすよ!
4. こんな悩みに応えるため、ラベルを開発しました。
5. 80g & 400g ジャバラに付けました。※意匠登録出願中



### 「磐高物語」 1

暗くなつた玄関の軒先で裸電球の明かりを頼りに、ミルキー先生は七輪の口に向かつて破れた団扇を忙しく振っている。

網わたしの上には、銀色に光る太めの秋刀魚が一匹乗っている。脂が、熾きた炭の上に滴りジュウジュウと音を立てながら煙を撒き散らしている。ミルキー先生はこれからが夕飯の時間なのだ。

『こんばんは、先生』

『おつ佐藤か、上がれ。高木も健次郎も来ているぞ、それに登志子もな。みんな来るから、めし食うあいだ勉強しとれ』

四畳半と六畳の小さな一軒家が、ミルキー先生の仮住まいである。そこにクラスの十人ほどが集まるのだから、まるで寺子屋だ。しかし、春の高校受験に備えるため皆必死なのだ。

地元の四倉高校をはじめ、工業系の平工業、農業系の磐城農業、商業系の平商業、女子の進学校磐城女子高そして難関の磐城高校

を目指すクラスメートが、静かに問題集に取り組んでいる。

わたしが目指す磐城高校には、親がセメント副工場長の渋谷君を始め同じ町内の石井君、地区外の小学校から合流した高木君そして館子屋さんの渡辺君と五人の受験生がいた。

皆大の仲良しだったし、良きライバルでもあった。当時学年は七クラスあったが、一クラスから五人が目指すというのは破格のことだった。況して、前年の受験で失敗した先輩が例年より多くいたことも、ミルキー先生の危機感を煽った。

授業中の指導も、熱を帯びてくと四角い顔が真っ赤になり丸い目がますます円くなって人形のペコちゃんに似てくる。そんなところが、熱血ミルキー先生のあだ名の由来のようだった。

お陰で五人とも突破出来、またクラス全員合格の快挙は橋本先生のご指導の賜物でした。

『ありがとうございました。』  
『人事を尽くして天命を待つ』

### 『ミルキー先生』

## ☆ あとがき ☆



夏の強い日差しを避けるため、支所の日陰になるコンクリートの台を腰掛け代わりに、いつの間にか3人が集うようになった。長老の平四郎さんを中心に、区長の緒方さんとわたしが加わって朝のサミットが開かれます。

以前、最高齢の某市長さんが健康の秘訣を聞かれて『一無し、二少、三多』と答えられていましたが、三人で実践しています。